評価者	教育部	佐藤 尚之
-----	-----	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	学習環境の整備・充実
------------	----	------	-------	------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	16.8%	平成27年度	17.5%	平成28年度	14.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事の効果	お金の使い方			仕事の効果	お金の使い方			仕事の効果	お金の使い方		
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない		使いすぎ	ちょうどよい	足りない		使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.3%	0.9%	0.3%	必要以上の効果	2.1%	1.7%	0.0%	必要以上の効果	1.8%	1.6%	0.2%
ちょうどよい	4.3%	46.7%	1.0%	ちょうどよい	5.3%	47.5%	1.1%	ちょうどよい	5.2%	51.7%	1.2%
効果不十分	5.9%	4.5%	10.2%	効果不十分	5.4%	3.4%	10.3%	効果不十分	4.8%	2.8%	11.4%

平成26年度

平成27年度

平成28年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>

平成28年度の結果では、仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が51.7%と最も高いポイントであり、市民の半数以上が市の取り組みとその予算に対し、当施策は妥当と考えていると分析できる。しかしながら、次に割合が高いのは、仕事の効果が「効果不十分」、お金の使い方が「足りない」の11.4%であり、今後の進め方では、3年間とも「もっと力を入れるべき」が20%を超えている。このことから、市民意識としては、さらに予算を含めた施策の充実を望んでいることが分析される。今後については、市民ニーズの的確な把握に努め、利用しやすく快適な学習環境を提供していく。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	21.3%	52.0%	6.7%	19.9%	100.0%
平成27年度	20.7%	50.8%	5.2%	23.3%	100.0%
平成26年度	21.1%	48.6%	7.8%	22.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

①生涯学習施設の適正な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供する。(教育-13、40)
--

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
教育-12	吉屋信子記念館管理運営事業	2,281	2,237	12,175	12,059	1.3	1.3	b	A
教育-13	生涯学習センター管理運営事業	159,901	153,117	198,716	195,425	5.1	5.6	a	A
教育-39	市史編纂事業	2,204	2,143	3,737	3,659	0.2	0.2	a	A
教育-40	図書館管理運営事業	120,059	130,055	294,857	310,507	22.8	23.8	a	A

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>①吉屋信子記念館の維持管理を行うとともに、一般公開業務や施設貸出業務などを実施した。また、地元限定の公開を行った。(教育-12)</p> <p>①生涯学習センター管理業務補助嘱託員の配置や事務用消耗品の購入など、生涯学習センターの運営に必要な事務を行うとともに、生涯学習センターの総合管理、各所修繕や生涯学習ネットワークシステムの保守管理など、施設の維持管理を行った。(教育-13)</p> <p>②市史の編さん事業に伴い、歴史的公文書等の収集・選別作業の試行を行った。(教育-39)</p> <p>③効果的な資料収集を図るとともに、市民等のニーズに則した貸出業務、インターネット予約受付などを実施するとともに、図書館業務に必要な嘱託員の配置と諮問機関としての図書館協議会の運営を図った。(教育-40)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>			
<p>①吉屋信子記念館の一般公開に際してツイッターやHPにより周知を行った。また地元住民を対象とした限定公開を実施し近隣住民の理解を深めるように努めた。(教育-12)</p> <p>①鎌倉生涯学習センターの維持管理に努め、トイレの洋式化など利用しやすい施設づくりを進めた。(教育-13)</p> <p>③図書館資料の充実を図り、情報の収集、発信に努めた。(教育-40)</p>			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>①老朽化している鎌倉生涯学習センターの施設や設備の改修について、公共施設再編計画との整合を図りながら計画的、効果的にすすめ、適切な維持管理に努める。(教育-13)</p> <p>③鎌倉らしい蔵書の構築を図り、快適な学習環境を確保するために、施設の維持修繕に努める。(教育-40)</p>
--

4 平成29年度の目標

<p>・生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供する。</p>

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-12	事業名	吉屋信子記念館管理運営事業				
指標の内容及	利用者数	単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
来場者の増加を図るため	目標値	6,850	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
	実績値	5,368	4,767	4,719			
	達成率	78.4%	69.1%	68.4%			
整理番号	教育-13	事業名	生涯学習センター管理運営事業				
指標の内容及	学習センターの利用者数	単位	千人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
生涯学習の振興状況を図るため	目標値	580	585	590	595	600	600
	実績値	627	560	535			
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%			
整理番号	教育-40	事業名	図書館管理運営事業				
指標の内容及	貸出冊数	単位	冊	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を利用してもらうため。	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752			
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%			

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・場所の確保について、公共施設再編計画の進捗状況と整合性を図る施設整備とあるが、どのようなプライオリティをつけて進めているのかを明らかにしていない。場の確保については現状維持とするのが限界という印象である。
- ・国立国会図書館のデジタル利用施設の登録など、せっかく良い取組を行っているにもかかわらず、市民に伝わっていない。
- ・図書館管理については、現在いろんな自治体では様々な工夫や取組が行われているが、鎌倉市は少し遅れている印象がある。いろんな事例を参考にして充実を図ることが求められる。
- ・平成26年の目標にあった「学習意欲の醸成を促す」が翌年から削除されている理由が分からない。

提言

- ・学習環境の提供だけではなく、自発的に学習する習慣が育成されるような魅力あるプログラムも提供すべきである。
- ・今までの取組や、新たに始めた取組(サービス)等について、積極的かつ具体的にアピールすべきである。
- ・今後「十分に場所が確保されている」状態に広げていくための施策・工夫が重要である。
- ・生涯学習センターの幅広い年代の活用に工夫が必要であり、利用者へのアンケート等によるニーズ把握が重要である。
- ・生涯学習センターに関する指標を「利用者数」「稼働率」の両者で見るとすべきである。
- ・図書館資料の充実は図られてきたが、気軽に来館できる様、イベントなどを工夫すべきである。
- ・図書館事業の充実度を他自治体との比較で明らかにすべきである。

指摘への対応、コメント等

- 公共施設再編計画における施設整備の中で、場の確保や利用方法について検討し、充実を図ってまいります。
- 図書館ホームページ等での周知方法を検討し、積極的に活用してまいります。
- 来館者をカウントする機器の設置や、図書館の運営体制に関し利用者へのアンケート等を行い、図書館の利用実態に合わせた管理運営に努めてまいります。
- 目標自体を削除したものではなく、生涯学習施設の適正管理、効率的な運営、市民が自発的に学習するための環境を整備などの目標について、表現を整理したことによるものです。

提言に関するコメント等(総論)

- 生涯学習センター推進事業で開催する講座・イベントについては利用者アンケートを実施しております。結果を今後の事業の企画・運営に反映させています。また、機会を捉えて幅広い年代へのニーズ把握に努めてまいります。
- 以前から利用者数を指標としているが、稼働率を指標に加えることについては、今後検討してまいります。
- 図書館では、年間を通じて幅広い年代層にご参加いただけるイベントを開催しており、近年では、聴覚障害者向けの手話つきおはなし会等も開催しています。今後も多様なイベントを企画すると共に、市民の方々への周知方法等に工夫してまいります。
- 事業の充実度に関しては、同様規模自治体との比較を行ってまいります。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・鎌倉生涯学習センターの維持管理に努め、トイレの洋式化やオストメイト対応のトイレの整備など利用しやすい施設づくりを進めた。
- ・図書館のイベント等の努力は感じられる。
- ・図書館資料の充実を図り、情報の収集、発信に努めた。

評価の内訳					⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	0		→
効果	○	1	△	1	—	6
						→
						—

《課題》

- ・アウトカムをどうするかが課題であり、市民ニーズの把握に加え、市民ウオッチもしっかりと捉えていくことが大切である。
- ・利用者数のみを指標にあげているが 数だけで学習環境の整備・充実は計れない。特に学習センターは年代層、男女別、ギャラリー、ホール、会議室、ロビー等別けて統計をとり、分析、今後の指針としてほしい。
- ・「図書館管理運営事業」に課題はないのか。
- ・図書館について、施策の方針が「環境の整備・充実」として「環境の整備」はしているが、「充実」の取組はしていない。
- ・図書館についても冊数では利用者がいつも同じ人となっていないか、広く市民の利用がなされているか、若者たちの学習の場が今は喫茶店などが占められている。この現状をどう考えるか。
- ・吉屋信子記念館の機能は生涯学習機能でよいか、意地保全などのことも考え、検討が必要である。一般公開することで施設の傷みの問題もあるなか、目標の立て方が入場者数のみで十分でない。
- ・市史の編さんに向け、歴史的資料の整理・保存及び散逸防止を行うことが必要である。

《提言》

- ・各年度の「目標」は具体的な活動計画の記入をお願いしたい。
- ・生涯学習センターの運営に1.5億円＋職員5名が費やされている。「管理運営の民間委託」は検討できないのか。
- ・吉屋信子記念館の管理運営事業がこのカテゴリーにある以上、何か生涯学習に関連した活動が行われてしかるべきであることから、具体的な取組を記載してほしい。
- ・現状は施設運営の中で色々工夫されているようだが、シートからは見えてこないので評価できない。簡潔にでよいので明記してほしい。
- ・この施策の方針は「環境の整備・充実」であるが「環境の整備」に対する取組みは見られるが、「充実」に関する取組が見られない。今ある施設を充実させるという意味では、図書館は身近ということもあり、市民サービスを上げやすい施設であることから、ハードとソフト(サービスを含む)の両面から充実に取組むべき。
- ・貸出冊数の増加など、数値的な指標を策定しているものについては、なぜそれらが増えないのかを分析し、適切な対応策を講じることが重要である
- ・指標において、来場者の増加を図るとしながら、目標値が毎年同じである。現状を分析した上で、適切な目標を設定すべき。
- ・図書館については、例えば「蔵書を月に一度各館に回す等」によりローテーションを組んで自分の近くで借りれるようにするなどのサービスを充実させることにより、人が集中しない仕組みを構築すべき。